
子宮内膜症治療方法

井内薬局実習生

同志社女子大学 5回生 青野凧紗



どうして子宮内膜症に興味を持ったのか

先日、自宅に子宮頸癌ワクチン接種のお知らせが届いた。

子宮頸癌のワクチンはあるのに、何故子宮内膜症のワクチンは存在しないのか、
予防できないのであれば、治療はどうするのかを疑問に思った。

そのため、発表を通して学習を深めようと思った。

内容

- ・ 子宮内膜症とは？
- ・ 検査と診断方法
- ・ 治療方法



子宮内膜症とは？

疫学・好発：20~40歳代の女性

原因：早い初経、月経周期の短縮、経妊・経分娩回数が少ない

病態生理：子宮外に子宮内膜組織が発生することでエストロゲンが依存性に増殖し、炎症と癒着を起こす。

好発部位：ダグラス窩、卵巣、子宮漿膜、仙骨子宮靭帯

症状・所見：月経痛、排便痛、慢性骨盤痛、不妊



部位別の症状について（1）



腹膜病変の場合：

血管増生が盛んな赤色病変や出血を繰り返した黒色病変、線維化した白色病変などが見られる。
症状）不妊がある。

卵巣病変（チョコレート嚢胞）：

卵巣内、卵巣周囲の内膜症病変が出血を繰り返し、血液、剥離組織が貯留することにより、チョコレート嚢胞となる。卵巣が腫大し、周囲との癒着も生じる。
症状）不妊、月経痛や月経困難症、慢性骨盤痛

部位別の症状について（2）



ダグラス窩病変：

ダグラス窩の内膜症病変が炎症、線維化を繰り返し直腸と子宮の癒着が生じる。
ダグラス窩は閉塞し、子宮が後屈する。
症状) 月経痛や月経困難症、慢性骨盤痛、排便痛

検査と診断方法

内診・直腸診：子宮後屈、子宮可動性制限、ダグラス窩圧痛

→外来受診や患者の負担が少ないことから、現在最も多く用いられている。

エコー・MRI：卵巣腫大、嚢胞性病変（チョコレート嚢胞の所見）

腹腔鏡検査

→月経困難症や原因不明、日常生活に支障が出るほどの自覚症状がある場合

治療方法

年齢、症状の程度、挙児希望の有無を考慮して治療方針を決定する。

【薬物療法】

- ・ 対症療法
- ・ 内分泌療法

【手術療法】

- ・ 保存手術
- ・ 根治治療

治療方針について

疼痛が主訴の場合：

対症療法

→内分泌療法

→保存手術・術後内分泌療法

→内分泌療法



不妊が主訴の場合：

腹腔鏡下観察＋保存手術

→タイミング指導

→排卵誘発・人工授精

→生殖補助医療（ART）



内分泌療法について

エストロゲン作用を抑制し病変の増殖を抑える目的で行う。

主なものに、LEP製剤、ジエノゲスト、GnRH受容体アゴニスト、ダナゾールがある。

ダナゾールは、GnRH受容体アゴニストが登場してから使用は減少し、GnRH受容体アゴニストは長期使用時の副作用などの問題があるため、現在の第一選択薬はLEP製剤またはジエノゲストとされている。



内分泌療法について ：LEP製剤

外因性に投与されたエストロゲン、プロゲステロンによるNFより、GnRHの分泌が抑制され、LH,FSHが減少する。それにより細胞が発育せず、エストラジオールの分泌が減少する。結果、プロゲステロンは子宮内膜組織の増殖を抑制する。



ご清聴ありがとうございました。

